



すりすり
やあにやの
挿も

気持ちよすぎ
返事もできないか?

大丈夫
だんだんと慣

だから
育てることにした

君の心を
満たして上げたい

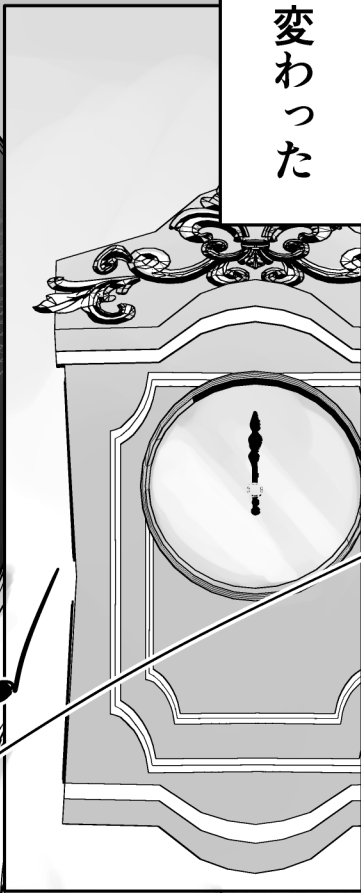
もういつもの生活に
戻ることはないのだから

…?



日付が変わった

今日で私は
18歳になる



まあ
祝ってくれる人は
もう居ない…

はずだった

何この料理…



えっ何？
不審者…？

とらうより…

お誕生日おめでとう

夢咲このみ

悪魔…？

私の名は
ネフリム・オウル・
ベス・デューク

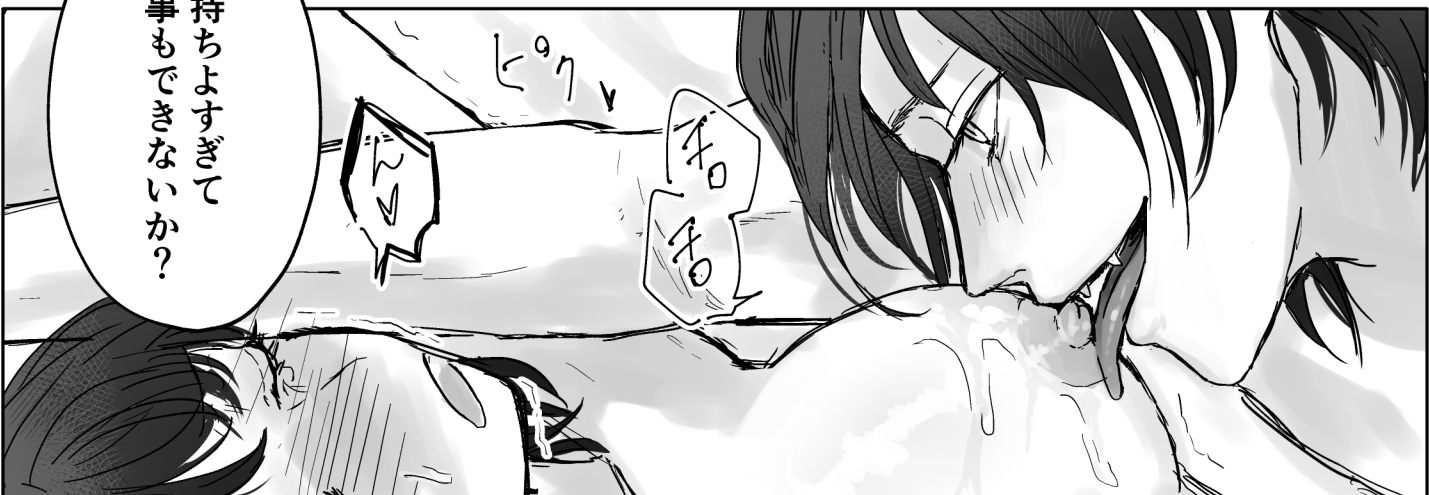
この日をずっと
待ち焦がれていた

迎えにきたよ
私の花嫁

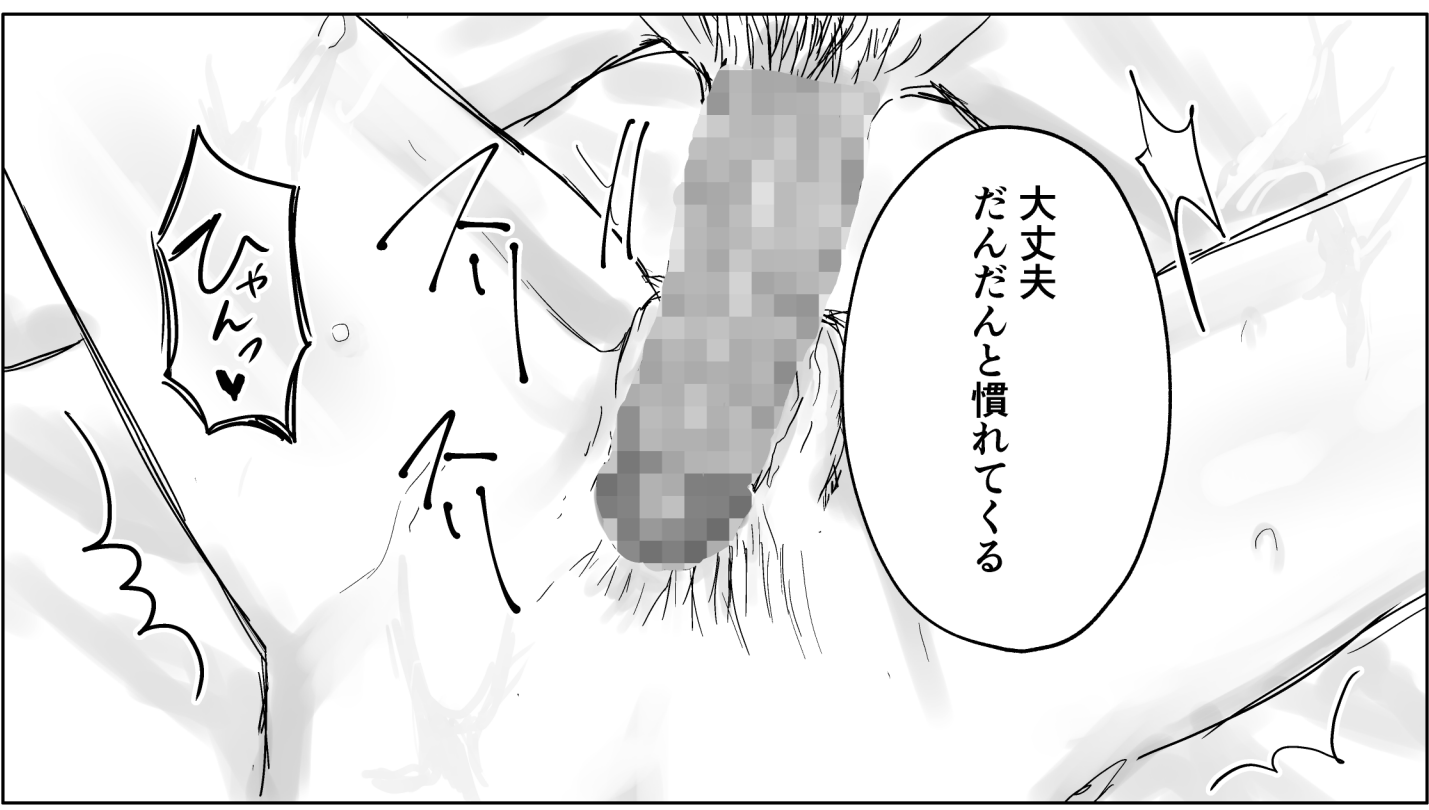


このみ好きだよ

愛してる



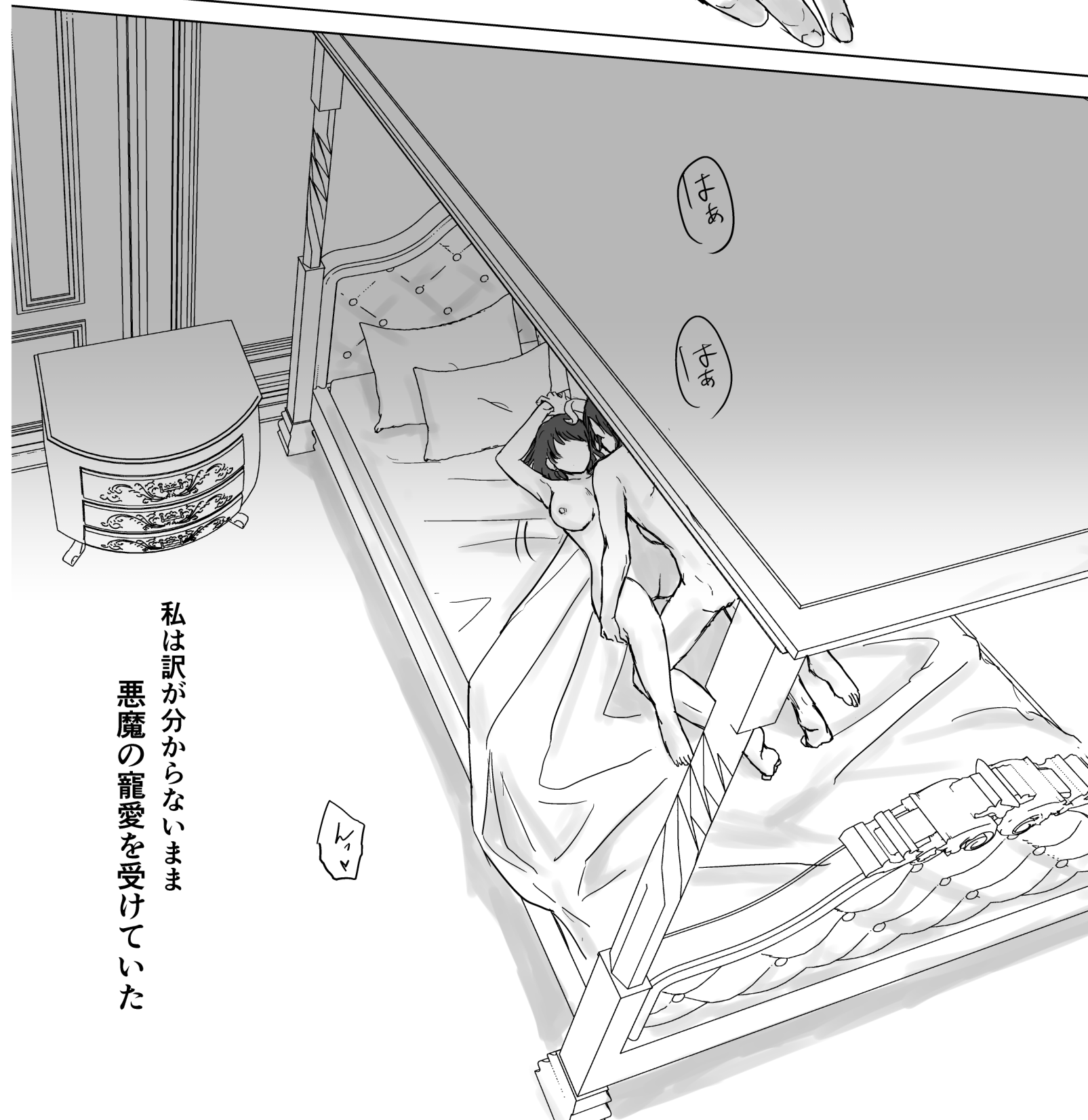
気持ちよすぎて返事もできないか?



大丈夫だんだんと慣れてくる



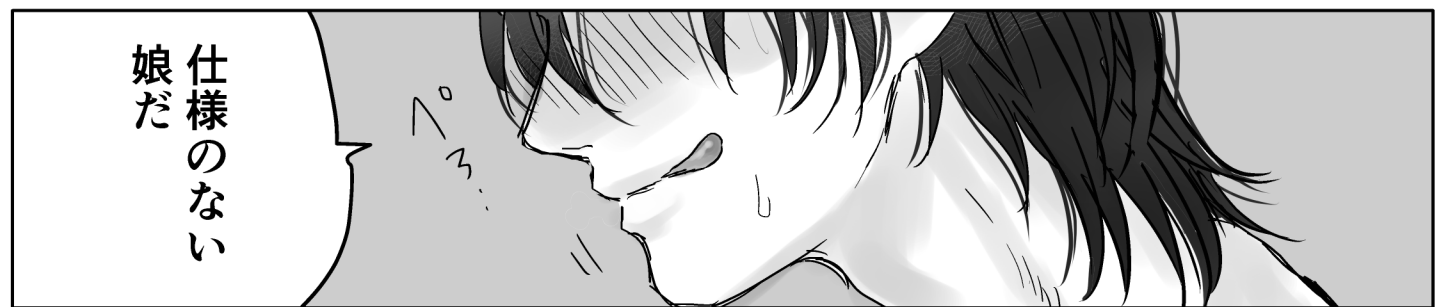
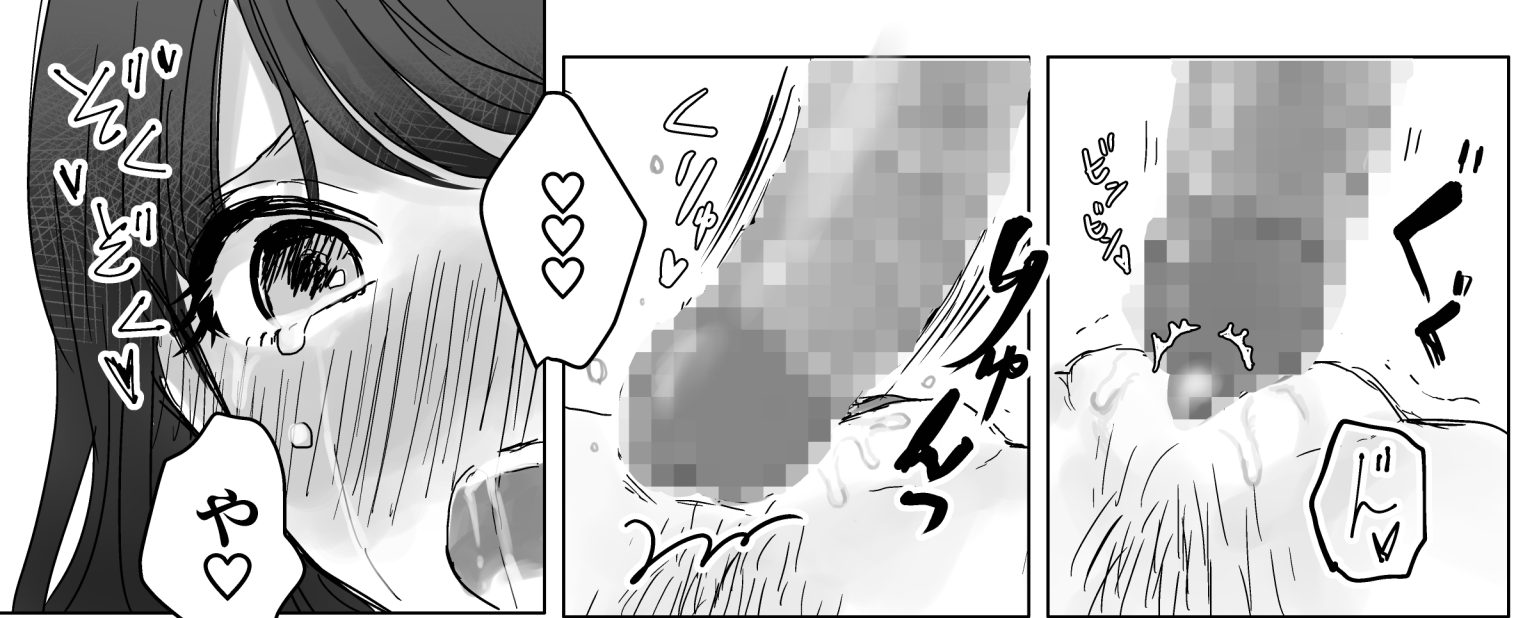
それから瞬く間にここに連れてこられ



まあ

まあ

私は訳が分からないまま悪魔の寵愛を受けていた





でもその前に

君の心を
満たしてあげたい

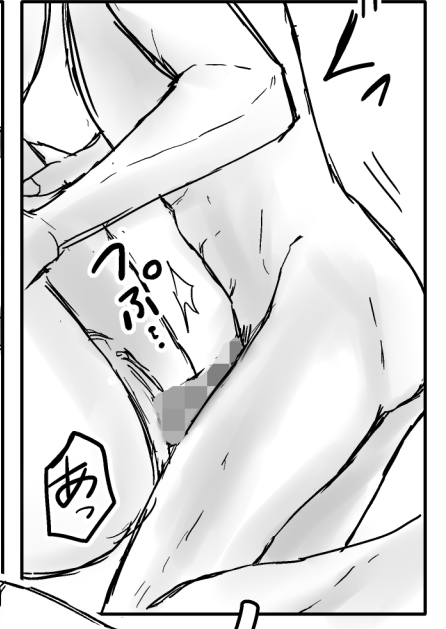
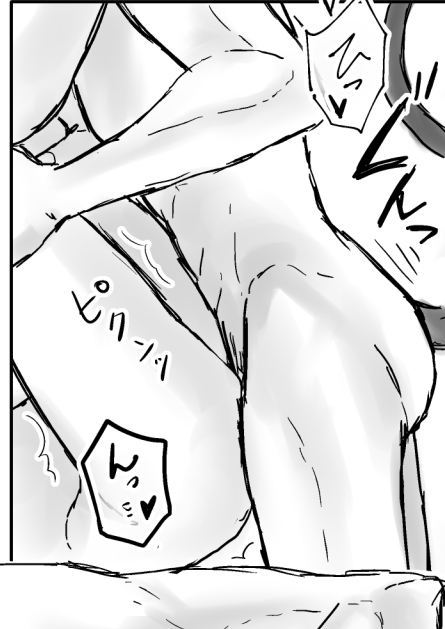


私だって
そうしたいさ

ここを
ひと思いに突いたら
どんなにいいか



このみは優秀だから
もう私のかたちを覚えたね



愛している
私の花嫁

—もういつもの生活に
戻ることはないのだろう

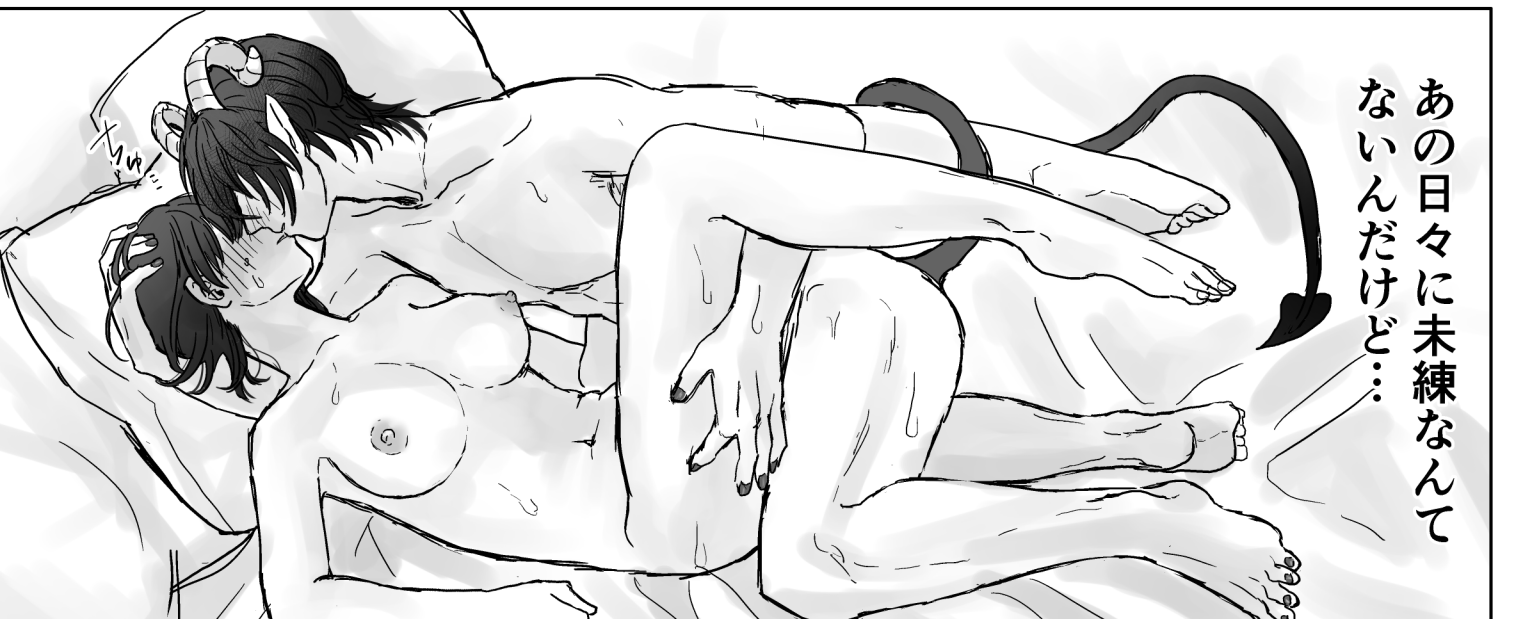


挿入れるだけは
やなのお…!



おねがい
うごいてえ

こうやってじらされ続けて
もう3回目の夜を迎える



あの日々に未練なんて
ないんだけど…

考えてみれば4年前のあの日から
私は死んだようなものだった

